



会員の作取久男さんに植物の育て方を教えていただきました。

Herb & Rose オーナー 作取 久男
<http://www.herb-rose.com>

(その1)

植物を育てる5つの心得で色々な植物を育てる事が出来ます。(残りの2つの心得は次回に)

■「毎日眺める」
毎日眺めることによって病気や害虫の早期発見につながり悪化する前に対処が出来ます。また、日々成長する姿を見る事によって生きているという事を実感すると同時に喜びが得られます。

■「植物を育てることは子育てと同じ」
植物にとって水は人間でいう白いご飯で肥料はおかげです。白いご飯だけやレトルト食品だけでは健康的で元気な子供は育ちません。腹八分目で栄養バランスが取れたより良い食事に心掛けましょう。

■「持っている品種の事を良く知る」
インターネットや書物での豊富な情報を元に自分が持っている品種の特性(性質)を知ることによって的確な育て方をはじめとする管理方法が



本年も花多き年でありますことをご祈念申し上げます。

人と地球の健康 (その1)

環境活動家
あだち 安人



みなさんは、ゲレタ・トゥーンベリさんをご存じでしょう。15才の時に、気候変動に危機感を持ち、スウェーデンの国会議事堂前に座り込んで、学校ストライキをやった少女です。彼女が起こした「気候のための学校ストライキ」—未来のための金曜日行動—は、世界中に広がり、若者を中心に700万人の人々が立ち上りました。

実は彼女には、その前にも「学校ストライキ」がありました。言わば登校拒否です。摂食障害となりガリガリに痩せて、誰とも話さない時期が長くありました。家族ですら必要な事以外は話さず、医者の診断は、アスペルガー症候群、脅迫性障害、選択的無言症というものでした。



両親は各地の病院を駆け回り娘の病気を治そうとしますが、なかなか治りません。そもそも病気の発端は、学校で見た海の環境問題の映像を見てショックを受けたことです。その後、彼女は自分で気候変動について学び、菜食主義者になるとか、環境負荷を減らす生活とか、飛行機に乗らないようにとか、両親を説得する中で病気を克服していきます。

そんな彼女が今や、国連や米議会などでもスピーチし、最近はドキュメンタリー映画にもなって熊本でも上映されました。

16才の時の国連でのスピーチでは、「二酸化炭素排出量を10年で半分に減らしたとしても、地球の平均気温を1.5℃以下に抑えるという目標を達成する可能性は50%しかありません。そしてそれによる取り戻しのつかない連鎖反応を埋め合わせることはできず、制御不能になります」と話して、世界中から集まった政治家(大人)に対し、対策の遅れの責任を鋭く問い合わせました。

彼女の行動は世界中に影響を与え、若いZ世代が行動を起こし、社会も政治も経済も変わっています。日本でも運動が広がっていて、熊本でもFFFK(「未来のための金曜日くまもと」)のメンバーらが世界的な行動日にアクションを起こしています。(次回は「地球の発熱・病気について」)

「スウェーデン議会の前で、「Skolstrejk för klimatet」(気候のための学校のストライキ)サイン、ストックホルム、2018年8月」
ウイキペディアより

くまもと健康友の会のこの1年を振り返って



2月 コロナ相談会 神水公園(写真:田中直光)



2月 ハイキングサークル 三角岳



2月 絵手紙教室



4月 東区食料無料配布会



3月 原発事故10年宣傳行動



4月 東区食料支援



4月 お弁当作り



4月 ハイキングサークル アケボノツヅキ



6月 友の会総会(オンライン)



7月 原水爆禁止大会へ平和の折り鶴作業



8月 原水爆禁止広島大会をオンライン視聴



10月 上野会長あいさつ・月間始まる



10月 熊本市民連予算要求交渉



11月 投票に行こう朝宣伝



11月 南町班会



12月 やまびこ班会